

教 科	美 術	科 目	素描
履修条件 対象生徒	選択履修 デザイン科 2 学年		
学習目標	・素描（デッサン）をする上で必要な道具に関する基礎的な知識はもとより、物の形と調子についての知識と技術を習得し、鉛筆を中心とする道具で表現する能力を身につける。 ・表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察する力、感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的な表現方法や造形要素に関心を持ち、対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力を身につける。		
学習方法	〔授業〕 ・各設定に基づいた課題を制作し、素描に必要な基礎的・基本的な技術や知識を習得する。 〔家庭学習〕 生活の中に美を常に意識し、美的感覚を養う。 〔補習・その他〕 状況に応じて、個別補習を行う。		
学習計画 と ねらい	< 1 学期末考査まで > 1 静物（人工物） (1) 様々なデッサン道具の使用法 (2) 立体の特徴の捉え方 (3) グレースケール (4) ハッチングとシェーディング 2 静物（自然物） (1) 有色下地ドローイング (2) 粘土クロッキー < 2 学期末考査まで > 3 静物（複数モチーフ） (1) 構図 (2) 形の捉え方 (3) ストロークの方向性 (4) 光の捉え方 4 自画像 (1) 人体の構造について (2) 構造観察 (3) 木炭デッサン < 学年末考査まで > 5 石膏像（首像） 6 自画像 ○素描とは何か、基本姿勢や用具の扱い方を理解する。 ○対象の形体や空間、よさや美しさを端的に把握し、大まかに表すために工夫して表現する。 ○鉛筆の硬度の違いで生まれる豊かな階調の幅を理解する。 ○筆圧の強弱や鉛筆の角度・指の動かし方の違いで得られる表現の幅を学習する。 ○「描く」という行為だけでなく「消す」という行為から得られる効果について理解する。 ○短時間で物の面としての構造を把握し、感覚的に表現する。 ○ものともとの関係や構図、光源の捉え方など総合的に把握し表現する。 ○面の方向性を意識したタッチで表現し、ものを輪郭的に捉えるのではなく、立体的に表現する。 ○自然物の構造の美しさを感じ取り、ものの見方や捉え方に関心をもつ。 ○対象物のよさや美しさを端的に把握し、質感の出し方を理解し、追及する。 ○大きな立体感や動勢を把握し、特徴を観察する。 ○対象物の美しさやよさを端的に把握し、大まかに表現する方法を学習する。 ○表現の意図、構図、描き方の工夫を凝らし、表現方法の幅を広げる。		
評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	モチーフを深く観察して、対象の特徴をつかむ力を身につけ、描画道具の使い方など意図に応じて活用している。	明暗と形体、面や質感、量感、空間、動勢などの造形要素を理解し、表現の構想を練ることができる。	モチーフの形態や光に対する感動を基に主体的に表現する。モチーフの構造を考え、内面や本質を主体的に描こうという態度で臨むことができる。
評価方法	○課題作品、意欲・態度、出席状況を総合的に判断し、評価する。		